

3 環境情報の収集・発信

センターは、県民の環境に対する意識の向上や環境保全活動を支援するため、ホームページを公開している。ホームページでは、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報等を提供している。センターでは、ホームページを情報発信の重要なツールの一つとして捉え、より効果的に情報発信を行うための整備を行っている。

ホームページアドレス:<http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BA30/cess.html>

[平成20年度アクセス件数 64,063件 前年度比 3.9%増]

また、本年度も、テレビ放映及び新聞を活用した環境情報の発信を行った。さらに、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを創刊した。

3.1 ホームページのコンテンツ

(1) ニュース・イベント情報

上欄の「お知らせ」には、新規掲載情報について告示。下欄の「イベント・講座受付」には、県民向け行事や講座受付について告示。

(2) センターの概要

総長あいさつ、組織概要、沿革、全景図(航空写真)を掲載。

(3) 利用案内

所在地、電話番号、休館日、入場料、交通、研修室の利用、講座情報、研究所公開等について掲載。

(4) 施設紹介

全景図(航空写真)の掲載ほか、展示館、環境情報プラザ、生態園を施設毎に紹介。

(5) 学習・情報

講座情報ほか、生態園だより、出前講座について掲載。また、併せてアルミや紙等のリサイクルについて挿絵等により分かり易く記した「身近な物の一生(リサイクル)」を掲載。

(6) 研究所

試験研究の取組、国際貢献について掲載。また、併せて刊行物をPDFにより提供する「刊行物データベース」、研究所内の様子を写真や文章により分かり易く説明した「バーチャル研究室」を掲載。

(7) 環境関連リンク

光化学スモッグ注意報等発令状況(大気汚染常時監視システム)、埼玉県自然学習センターほか。

(8) その他

環境科学国際センター紹介ムービー、ダイオキシン類TEQへの各汚染源寄与率の推算フォームを公開。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するため、新たにニュースレター(A4版、4ページ)を発行した。1年間に4回発行する予定で、平成20年度は2回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードすることができる。

(1) 創刊号(平成20年11月発行)

- ・ 創刊にあたり
- ・ 環境科学国際センターについて
- ・ 研究紹介
「地球温暖化の埼玉県への影響」
「埼玉県における地質地盤データの収集・解析とその利用」
- ・ 研究部門の紹介 「大気環境担当」
- ・ 環境学習・イベント情報

(2) 第2号(平成21年1月発行)

- ・ 研究紹介
「武甲山に生育する絶滅危惧植物ミヤマスカシユリの保全研究 ―個体の維持・増殖と危険分散―」
「別所沼(さいたま市)および山ノ神沼(蓮田市)における生態工学技術を導入した沈水植物による浄化・資源化」
- ・ 研究部門の紹介 「水環境担当」
- ・ 環境学習・イベント情報

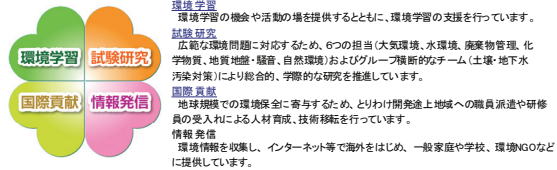


創刊にあたり
環境科学国際センターについて 1
地球温暖化の埼玉県への影響 1
国際貢献における環境科学の役割・展望とその発展 3

研究部門の紹介
大気環境担当 3
イベント 4

◆創刊にあたり
7月に開催された北海道総合サミットでは、テーマの一つとして「環境問題」が取り上げられました。この様に今、全世界で環境に関する課題の解決が重要なこととなっています。埼玉県環境科学国際センターは、県が直面している環境問題へ対応するための試験研究や環境面での国際的な連携を図るなど多面的な機能をもった環境科学の総合的中核機関です。このニュースレターは、県民の皆様への当センターの情報発信活動の一環として発行しました。センターで行っている試験研究の内容や様々な講演などを紹介してまいりますので、ご一読いただければ幸いです。さらには当センターの研究をご活用いただき、また当センターに足をお運びくださるようお願い申し上げます。

◆環境科学国際センターについて
複雑、多様化する環境問題に適切に対処するため、当センターが有する4つの基本的な機能についてご紹介します。



◆研究紹介
環境科学国際センターでは、環境の把握、環境問題の解決、環境の創造に向けて様々な試験研究を行っています。その一部をご紹介します。

地球温暖化の埼玉県への影響
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が昨年発行した第4次報告書(以下、報告書)には、今や地球規模の温暖化は疑わぬ余地がないと述べられています。過去100年間の世界の気温上昇は0.74℃で、特に最近の2年(1995～2006年)は、気温測定が始まって以来、最も温暖なことが分かって

います。こうした温暖化は、様々な人間活動で放出される二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの影響が原因と考えられます。温室効果ガスの削減に向けては、国際連合などを中心とした取組が行われ、京都議定書の策定といった成果も得られていますが、具体的な削減の目途は立って

いません。また、この報告書では様々な温室効果ガスの排出シナリオを基に今後の温暖化を推定しています。これによると、今世紀末の気温は最大6.4℃上昇すると予想されます。さらに、温暖化の影響については、氷河の減少、海水面上昇、降水量の変化、

ニュースレター創刊号

3.3 映像による情報発信

(1) テレビ埼玉・ごごたま「環境シリーズ」(第2ステージ)における環境情報の提供

埼玉県が抱えている環境の諸問題について、当センターが行ってきた研究内容を交えてわかりやすく紹介する「環境シリーズ」が、平成18年8月から19年7月までテレビ埼玉の情報番組「ごごたま」の中で放送された(全23回)。

第2ステージでは、県民の環境保全に対する自発的取組や行動に繋げるため、家庭や身近なところで取り組める事例を紹介し、一人一人の行動が環境(地球)を守るということを認識してもらうことを目的とした。前シリーズ同様、テレビ埼玉「ごごたま」の中で平成19年10月8日から20年9月22日まで全22回を放送した。平成20年度の放送テーマは下表のとおりである。

| 放送日 | テーマ名 | 担当部門 |
|----------|--------------|---------------|
| 4月14日(月) | 地球温暖化① | 大気環境担当 |
| 4月28日(月) | 地球温暖化② | 大気環境担当 |
| 5月12日(月) | 地球温暖化③ | 自然環境担当 |
| 6月9日(月) | 光化学スモッグ | 大気環境担当 |
| 6月23日(月) | 彩の国環境大学 | 学習情報担当 |
| 8月11日(月) | ヒートアイランド | 自然環境担当 |
| 8月18日(月) | 平成の名水百選 | 水環境担当 |
| 8月25日(月) | 土地を売るとき、買うとき | 土壌・地下水汚染対策チーム |
| 9月8日(月) | 増える外来生物 | 自然環境担当 |
| 9月22日(月) | 里山を守る | 自然環境担当 |

3.4 新聞による情報発信

県の環境の現状やセンターの活動状況を多くの県民に理解してもらうことを目的に、センターの研究者が日頃の研究成果を活かして分かりやすく紹介する「環境シリーズ 埼玉の環境は今」を、平成19年度に埼玉新聞で掲載した(全39回)。平成20年度は、この第2弾として「自然との共生 埼玉の現状と課題」(地球温暖化・みどりの再生・川の再生)を掲載した(全21回)。テーマは下表のとおりである。

| 掲載日 | テーマ名 | 執筆者 |
|-----------|---|---------------------------|
| 5月19日(月) | 洞爺湖サミットに向けて -テーマは「環境・気候変動」- | 総 長 須藤隆一 |
| 5月26日(月) | 地球温暖化と埼玉の気温変化上昇 -加速する気温上昇を止められるか- | 自然環境担当 小川和雄 |
| 6月 2日(月) | 二酸化炭素濃度の精密観測 -2001年以降増加率が拡大- | 大気環境担当 武藤洋介 |
| 6月16日(月) | ごみ埋立地から出るメタンガス -日本全体の排出量の約1/4を占める- | 廃棄物管理担当 長森正尚 |
| 6月23日(月) | 温室効果ガスを知る -必要だが過剰になると問題- | 大気環境担当 米倉哲志 |
| 6月30日(月) | 豊かさの象徴、二酸化炭素排出量削減の行方 -実現可能な社会システムを- | 自然環境担当 小川和雄 |
| 7月 7日(月) | 埼玉のヒートアイランド現象 -都市化による温度上昇も- | 自然環境担当 嶋田知英 |
| 7月21日(月) | 埼玉の炭素貯蓄 -森や土壌が貯える二酸化炭素- | 自然環境担当 嶋田知英 |
| 7月28日(月) | 森林・緑地のもつ多面的環境保全機能 -日本全体で約70兆円の評価も- | 自然環境担当 小川和雄 |
| 8月 4日(月) | 田んぼと生物多様性 -生き物の宝庫ウェットランド(湿地)としての田んぼ- | 自然環境担当 嶋田知英 |
| 8月11日(月) | 私たちにできる緑化 -緑を利用した快適生活- | 自然環境担当 三輪 誠 |
| 8月18日(月) | 希少種の保全 -自然との共存目指して- | 自然環境担当 三輪 誠 |
| 8月25日(月) | 「川の国 埼玉」の実現に向けて -”里川”再生の取り組み- | 水環境担当 高橋基之 |
| 9月 1日(月) | 埼玉の名水環境 -”平成の名水百選”に4カ所選定- | 水環境担当 高橋基之 |
| 9月 8日(月) | 生き物と人とのかかわり -里川の生き物を守るために- | 自然環境担当 金澤 光 |
| 9月15日(月) | 水生生物への影響が懸念される化学物質 -PFOSと紫外線吸収剤- | 水環境担当 亀田 豊 化学物質担当 茂木 守 |
| 9月22日(月) | 里川の生き物保全の新たな展開 -川に子どもたちがよみがえるか- | 水環境担当 田中仁志 |
| 9月29日(月) | エコテクノロジーによる里川再生 -自然の生態系が持つ力の活用- | 水環境担当 木持 謙 |
| 10月 6日(月) | 里川再生のための最新水処理技術 -リンも除去できる浄化槽の開発- | 水環境担当 見島伊織 柿本貴志 |
| 10月13日(月) | 里川再生と地域住民の取組 -チェックシートなどで家庭でも対策- | 水環境担当 鈴木 章 |
| 10月20日(月) | G8サミットを受けて -エコ社会形成へ直ちに行動を- | 総 長 須藤隆一 |

なお、この原稿は環境科学国際センターのホームページで閲覧することができる。

3.5 センター講演会

当センターでは、センターが持つ4つの機能の一つである環境分野での国際貢献を進めています。そこで、今年度は県が進めるアジア地域への海外協力の情報発信として、〈埼玉発一国際貢献～アジアの国々との連携〉をテーマに、「平成20年度埼玉県環境科学国際センター講演会」を埼玉会館(さいたま市浦和区)で、平成21年1月28日に開催した。中国の研究者による特別講演を行うとともに、環境科学国際センターの国際貢献に関する成果と事例の発表及び研究活動紹介のポスター展示と解説を行い、環境問題への理解を深める機会とした。300名の参加があった。

(1) 特別講演

深刻化する中国の水環境と湖沼のアオコ問題

…………… (独)国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センターバイオエコ技術研究室長 徐開欽

中国では、一人当たりの水資源が世界平均の4分の1に過ぎず、多くの地域で水不足問題を抱えている。また、近年は水環境汚染が進み、水不足にさらに拍車をかけている。このような状況の中、深刻な水質汚染が次々と発覚し、水不足と水環境汚染は中国における経済及び社会の発展の重要な制限因子となっている。そこで、中国における水環境の状況を紹介するとともに、深刻化が増す湖沼・ダム湖の富栄養化とアオコ問題とその修復戦略について講演した。

中国における水環境対策 一太湖の状況を中心に一 …………… 中国上海交通大学環境科学与工程学院教授 孔海南

太湖は、中国江蘇省南部と浙江省北部の境界にあり、上海市の西約110kmに位置する湖で、琵琶湖の約4倍、埼玉県約5分の3の面積を有している。太湖周辺は、風光明媚な土地として昔から観光産業が盛んだが、近年は周辺の各都市を中心に産業が著しく発展し、人口が増加している。その結果、太湖は汚染が広がり、飲料水源の安全及び水圏生態系の健全性に深刻な影響を与えている。そこで、太湖の水質・底質の現状と改善のための中国国家プロジェクトについて講演した。

(2) センターの研究成果・事例紹介

”粒子”が見つない中国上海大学との研究交流 一交流から学んだこと一 …………… 大気環境担当 米持真一

近年の中国の経済発展は目覚ましいものがあり、それに伴う環境汚染問題が深刻化していることが報じられている。春先に発生する「黄砂」は中国内陸部の砂漠地帯から砂塵が飛来する現象で、日本にも運ばれていることが知られている。

当センターでは、黄砂を含む空気中の粒子状物質や光化学スモッグに関する調査研究に取り組んできたが、これらの取り組みを基盤として、2007年度に中国上海大学と研究交流を締結した。そこで、協定により始めた空気中に浮遊している”粒子”に関する共同研究、さらに、上海大学の胡教授・呂准教授および学生さんたちとの交流について紹介した。

バングラデシュでの地下水ヒ素汚染への取り組み 一現地の調査に参加して一 …………… 水環境担当 見島伊織

地下水のヒ素汚染は東南アジアを中心に大きな問題になっており、バングラデシュでは特に深刻な状況になっている。この国では飲料水源の多くを地下水に頼っているが、ほとんどの地域でWHOが定めた飲料水のヒ素の基準を上回る汚染が確認され、3000万人以上がヒ素中毒の危険性があるとされている。ヒ素には毒性があり、進行すると皮膚癌などを引き起こすと言われている。こうした状況で、ヒ素汚染対策として各家庭でヒ素を除去できる安価でメンテナンスが容易な装置の開発が望まれている。

当センターでは、立命館大学と共同でこのようなヒ素除去装置の開発を行っている。そこで、現地の大学やNGOと連携した調査や実験について紹介した。

土壌による処分場浸出水の浄化 一JICA草の根技術協力事業:タイ王国における環境保全技術の構築一

…………… 廃棄物管理担当 磯部友護

タイ王国は日本とも古くから交流があり、また、近年は経済発展も目覚ましく、東南アジアにおける代表的な工業国となっている。

タイ環境研究研修センターと当センターは1995年に交流を始め、2008年には研究交流協定を締結して研究員の相互受入を行っている。2006年度からはJICA草の根技術協力事業により、「地域土壌を利用した環境保全技術の構築」(3カ年)という事業を行った。この事業は、タイの地域土壌を用いた浸透性反応層(PRB:Permeable Reactive Barrier)を用いた廃棄物処分場から発生する汚水の固相浄化システムの設置およびその能力について紹介した。

(3) センターの活動紹介

各担当がその活動概要を紹介するポスターを展示し、参加者に説明するとともに、質問に答えた。



特別講演(左:徐開欽先生、右:孔海南教授)



ポスター展示

3.6 環境情報の提供

(1) モニタリングデータの提供(CO₂)

さいたま市(1991~2000年度)、堂平山(1992年度~)及び当センター(2000年度~)において、地球温暖化原因物質である大気中のCO₂濃度を継続観測してきた。測定に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、国連世界気象観測機構(WMO)の観測網を通して世界各地に供給した。

(2) 環境情報の海外への発信

当センターの研究活動の成果や環境保全に向けた各種情報について、センターホームページに掲載することなどにより広く海外に向けて情報発信を行った。

- ・「英語論文集」を発行提供
- ・「さいたまの環境」(英語版)をWeb上で提供

3.7 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して、記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|--------------|--------|---|--|
| 4月 7日 (月) | 日本教育新聞 | ・緑化活動など3校が成果報告 ・埼玉の環境フォーラムで | 埼玉県環境科学国際センターは3月23日、「子ども環境フォーラム」を開催し、騎西町立騎西中、越谷市立北中、蓮田市立黒浜中が日ごろの環境学習・活動の成果を報告した。各校の報告後には同センターに所属する研究者と中学生が意見を交換した。 |
| 5月 8日 (木) | 読売新聞 | ・ハトの死骸 農薬を検出 | 川越市内で変死したドバト5羽の胃の内容物から、有機リン系殺虫剤のパラチオン、フェントロチオンが検出された。埼玉県環境科学国際センターが検査を実施した。 |
| 5月 8日 (木) | 埼玉新聞 | ・ドバト5羽死ぬ 殺虫剤を検出 | 川越市内で変死したドバト5羽の胃の内容物から、有機リン系殺虫剤のパラチオン、フェントロチオンが検出された。埼玉県環境科学国際センターが検査を実施した。 |
| 5月30日 (金) | 毎日新聞 | ・ここ『一番』トップに聞く ・温暖化対策積極的に社会全体で考えるべき問題 | 温暖化について、須藤隆一総長へのインタビュー記事。 埼玉の環境の特徴、二酸化炭素による温暖化とヒートアイランド現象、県の「温暖化対策専門委員会」座長として等について話した。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|--------------|---------|--|---|
| 6月 7日 (土) | 山陰中央新聞 | ・東横イン硫化水素事故 廃材撤去 見通し立た ず ・作業の安全確保見極め 専門家招き調査 | 「東横イン松江駅前」の硫化水素事故で、発生源の石膏ボードなど不法投棄された廃材の撤去に向け、島根県は専門家を呼んで意見を求めたが、撤去作業の見通しが立っていない。そこで、硫化水素に詳しい埼玉県環境科学国際センターの小野雄策担当部長を招き、調査結果を撤去計画に反映させる。 |
| 6月 7日 (土) | 読売新聞 | ・松江のホテル地下室汚 泥 ・県がサンプル調査 | 「東横イン松江駅前」で硫化水素が発生した問題で、島根県は発生源とみられる産業廃棄物などについて調べるため、汚泥のサンプリング調査を埼玉県環境科学国際センターに依頼して実施した。 |
| 6月 7日 (土) | 毎日新聞 | ・東横イン廃材 ・「投棄場所」違う場所で 発見 | 「東横イン松江駅前」で硫化水素が発生した問題で、発生源とみられる建築廃材を投棄したとされる場所と、島根県が廃材を発見した場所が異なることが分かった。島根県は埼玉県環境科学国際センターの専門家から指導を受けながら撤去方法を検討する。 |
| 6月10日 (火) | 山陰中央新聞 | ・東横イン硫化水素事故 ・廃材撤去 期間間に合 わず | 「東横イン松江駅前」で硫化水素事故で、発生源の石膏ボードなど不法投棄された廃材の撤去作業が進まず、島根県が期限とした10日に間に合わないことが確実に。島根県は先週、埼玉県環境科学国際センターから廃棄物処理の専門家を招き、廃材を調査した。 |
| 6月10日 (火) | 朝日新聞 | ・硫化水素問題 ・廃材撤去計画、県に提 出 ・東横イン系列会社週内 にも開始 | 「東横イン松江駅前」で硫化水素が発生した事故で、発生源の廃材を放置した「東横システム電建」が9日、島根県に廃材撤去計画を提出した。島根県は埼玉県環境科学国際センターから廃棄物管理の専門家を招き、発生源の配管室内を調査した。 |
| 6月10日 (火) | 毎日新聞 | ・説明の配管室には建築 廃材はなし ・東横が処理計画案 | 「東横イン松江駅前」で硫化水素が発生した問題で、島根県は「東横システム電建」が建築廃材を投棄したと説明した配管室に廃棄物がないことを確認した。埼玉県環境科学国際センターが硫化水素の発生した地下配管室を調査した。 |
| 6月18日 (水) | 朝日小学生新聞 | ・清流と生き物を守る | 地域の人々が大切に守ってきた清流の中から選ばれた「平成の名水百選」。小学生の熱心な保護活動が選ばれる理由の一つになったところもある。名水に生きる生物の保護に息長く取り組んでいる熊谷市立佐谷田小学校の活動を紹介。埼玉県環境科学国際センター金澤光担当部長が「最近の調査で川ではムサシトミヨの数が半減していることが分かり、今もなお危険な状態。京都などでは同じ仲間のミナミトミヨが絶滅している。名水百選に選ばれ、少しでも多くの人に感心を持ってほしい」とコメントした。 |
| 8月15日 (金) | 埼玉よみうり | ・騎西 親子で昆虫採集・ 標本作り満喫 ・里山体験に子どもも親 も興奮 | 埼玉県環境科学国際センターで8月2日に生態園体験教室「昆虫の標本をつくろう」が開かれ、近隣市町から小学生や保護者が挑戦。講師の嶋田知英研究員の説明後、生態園で昆虫採集を開始。参加者からは「いい体験になった」と満足の声がかれた。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|---------------|--------------------------|---------------------------------------|--|
| 9月20日 (土) | 埼玉新聞 | ・自由な感性を表現 県環境科学国際センター ・養護学校生が絵画展示 | 埼玉県環境科学国際センターの展示館2階で、県立騎西養護学校の児童・生徒が手掛けた絵画などが展示されている。同センターが地元と連携して進めている取り組みの一環。 |
| 10月31日 (金) | 人・街・元気マガジン ぱど白岡・久喜・加須エリア | 『あそぼう！学ぼう！県民の日 環境科学国際センター特別企画』 | 埼玉県環境科学国際センターで開かれる県民の日特別企画を紹介。 |
| 11月 1日 (土) | 埼玉新聞 | ・UNEPコーナーで世界の環境情報発信 県環境科学国際センター | 埼玉県環境科学国際センターの展示館1階に、県内初となる国連環境計画「UNEP(ユネップ)」の常設展示コーナーが開設された。自然の大切さを訴える写真などで世界の環境情報を発信する。 |
| 12月 6日 (土) | 埼玉新聞 | ・となりの達人 多様な生物守りたい | 生物多様性の保全をテーマに研究しているとして、嶋田知英専門研究員が紹介された。 |
| 12月11日 (木) | 埼玉新聞 | ・地球温暖化の現状 在学生2千人が学習 ・南区でいきがい大学公開講義 | 高齢者の学習の場である「彩の国いきがい大学」の公開学習が開かれ、埼玉県環境科学国際センターの須藤隆一総長が地球温暖化の現状と将来について講演した。 |
| 1月14日 (水) | 埼玉建設新聞 | ・環境科学国際センター28日環境の講演会 ・国際貢献をテーマに | 埼玉県環境科学国際センターは28日、埼玉会館で国際貢献をテーマに講演会を開催する。中国の水環境とアオコ問題、水環境対策の特別講演と同センターの研究成果・事例を発表する。 |
| 1月24日 (土) | リビングさいたま中央 | ・環境分野での国際貢献を進める ・環境科学国際センターの講演会 | 1/28(水)12:00～16:30、埼玉会館小ホールで「平成20年度埼玉県環境科学国際センター講演会」を開催。「埼玉発ー国際貢献～アジアの国々との連携～」をテーマに特別講演と成果・事例を発表する。 |
| 1月27日 (火) | 読売新聞 | ・中国の湖 浄化支援 ・県環境科学国際センター 汚泥除去など | 埼玉県環境科学国際センターが、中国第3の湖「太湖」の浄化作戦に一役買うことになった。センターは研究交流を続けている上海交通大学を通じて、汚泥除去などの技術支援を行う予定だ。これに関連し、上海交通大学の孔海南教授が28日、上田知事を訪問する。 |
| 1月29日 (木) | 埼玉新聞 | ・中国「太湖」浄化を支援 県、研究員を2年間派遣へ | 中国で3番目に大きな湖「太湖」の浄化対策事業に対して、埼玉県環境科学国際センターが技術支援を決めた。県は2009年度から2年間研究員を派遣し、汚泥の無害化技術開発や再利用に取り組む。上海交通大学の孔海南教授が上田知事を訪問し、期待感を示した。知事は「協力したい」と応じた。 |
| 1月29日 (木) | 埼玉建設新聞 | ・県環境部 ・「アオコ」テーマに 水問題の講演会実施 | 埼玉県環境科学国際センターは28日埼玉会館で、国際貢献を目的に水問題の講演会を行った。講演会では、国立環境研究所の徐開欽先生が「深刻化する中国の水環境と湖沼のアオコ問題」というテーマで講演した。 |
| 1月31日 (土) | 朝日新聞 | ・中国・太湖浄化へ技術協力 ・新年度から県センター泥浚渫や無害化 | 中国の太湖の浄化に埼玉県環境科学国際センターが技術協力することになった。中国政府から事業委託を受けている上海交通大学の孔海南教授は県庁を訪れ、上田知事に技術協力への期待を述べた。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|--------------|--------|--|---|
| 2月 3日 (火) | 東京新聞 | ・県環境科学国際センター 中国・太湖の浄化支援 ・新年度から 職員派遣、汚泥の浚渫など協力 | 新年度から埼玉県環境科学国際センターが、中国・太湖の浄化に技術支援することになった。現地に職員を派遣して湖底に溜まった汚泥の調査、浚渫した汚泥の資源化に協力する。 |
| 2月 8日 (日) | 埼玉新聞 | ・県環境科学国際センター ドブガイ水質浄化に一役 ・人工繁殖成功へ一歩 自然の力で再生期待 | 高い過能力を持ちながら減少傾向にあるドブガイの人工飼育方法の確立に向け、埼玉県環境科学国際センターが研究を進めている。 |
| 3月19日 (木) | 日本経済新聞 | ・中国・太湖の汚泥除去支援 ・県環境科学国際センター 海外で環境3事業協力 | 埼玉県環境科学国際センターは2009年度から、中国やタイで環境分野の技術支援を始める。まず中国の太湖に研究員を派遣する。海外の研究者受入などから一歩進んで具体的な技術支援に乗り出すことで、国内でも活用できる環境関連技術の蓄積を高める。 |

(2)テレビ放映、ラジオ放送

| 放送日 | 局名 | 番組名(タイトル) | 内 容 |
|---------------|----------|---------------------------------------|--|
| 8月 4日 (月) | テレビ埼玉 | ・ひるたま&ごごたま 「音楽探偵田辺晋太郎」 | 出演者が埼玉県環境科学国際センターを訪れ、～まだまだ間に合う！夏休みの自由研究～というテーマで、研究所内の見学並びに生態園を研究員とともに歩き、昆虫を見たり捕まえたりして環境について学ぶ。 |
| 9月 6日 (土) | テレビ埼玉 | ・週刊彩の国ニュース | 私たちが直面する環境問題にスポットを当て、問題解決に向けて取り組んでいる埼玉県環境科学国際センターを紹介した。水環境担当と大気環境担当へのインタビュー、見学会の様子、生態園やイベントや講座の照会をした。 |
| 11月12日 (水) | テレビ埼玉 | ・ごごたま | 11月17日に開催される埼玉県環境科学国際センターみどりと川の再生フォーラムのお知らせ。 |
| 12月10日 (水) | NHK総合 | ・クローズアップ現代 「突然の有毒ガス発生～石膏ボードの落とし穴～」 | 廃石膏ボードの不適正な処理により、有毒な硫化水素ガスが各地で発生している。この硫化水素ガスの環境保全対策から、拡大生産者責任において硫化水素ガスが発生しない石膏ボードの製造までを取材したものである。埼玉県環境科学国際センターは、この番組の骨格の相談及び不法投棄現場での修復技術を紹介した。 |
| 1月14日 (水) | テレビ埼玉 | ・ごごたま | 1月28日に開催される平成20年度埼玉県環境科学国際センター講演会のお知らせ。 |
| 1月20日 (火) | FM NACK5 | ・「モーニングスクエア」 | 埼玉県環境科学国際センター講演会とトピック講座のお知らせ。 |
| 1月28日 (水) | テレビ埼玉 | ・ニュース | 上海交通大学孔海南教授が知事を表敬訪問した。 |